

シンポジウム：インクルーシブ教育システム構築におけるインクルDBの活用の意義

司会 藤本裕人（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）

<趣旨説明>

説明者 藤本裕人（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）

本研究所の藤本から、シンポジウムの趣旨説明がなされた。障害者の権利に関する条約の批准、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の施行を受けて、学校教育においても障害のある幼児児童生徒に合理的配慮を確保していくことが急務の課題となり、各学校での対応の方法が求められている。本研究所のインクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）は毎月約2～3万のアクセスがある。このシンポジウムは、インクルDB活用と今後のインクルーシブ教育システム構築支援をどのように進めていくか探る。

（以上、要項p15参照）

<報告1>

「インクルDBの掲載事例から読み取れる現状」

報告者 横尾 俊（国立特別支援教育総合研究所主任研究員）

本研究所の横尾から、インクルDBのこれまでについて説明があった。内容としては、アクセス数や掲載事例の掲載内容とともに、平成28年度から合意形成の実践事例も掲載していることを紹介し、インクルDBにおいて合意形成プロセスで記述されている内容の類型が示された。このほかに、検索方法について実際に操作例を提示するとともに、研修などでの活用方法について例が説明した。

今後の課題として、検索の利便性を上げる改善やインクルDBの活用に資するための資料提供などについて取り組む必要があることが述べられた。

<報告2>

「地域や学校におけるインクルーシブ教育システムの構築 ―インクルDBを活用した、合理的配慮等の検討―」

報告者 藤井里織（宮崎市立宮崎小学校・宮崎東諸県エリアコーディネーター）

宮崎市立宮崎小学校の藤井氏からは、宮崎県が平成25年度から開始した「支援をつなぐ」特別支援教育エリアサポート充実事業の紹介があった。平成28年度は、エリア研修、巡回支援・校内研修を通じた「合理的配慮の提供」の普及啓発を行ったことが紹介された。具体的な支援の手立てや合理的配慮を検討するにあたり、インクルDBが活用され、「学校力の向上」のための一つの手段としていることが報告された。

<報告3>

「教育委員会主催の研修会等におけるインクルDBの周知及び活用促進」

報告者 仙北谷逸生（北海道教育庁学校教育局特別支援教育課）

北海道教育庁の仙北谷氏からは、学校教員向けなどの各種研修において合理的配慮の普及に向けインクルDBの活用がされていることが紹介された。また、普及活動についても学校だけでなく各教委、福祉分野等関係機関への普及も重要であり研修活動を行っていることが紹介された。あわせて、道立特別支援教育センターの研修事業、Webを通じた普及も行っていることが紹介された。

<指定討論>

「共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進におけるインクルDBの活用」

指定討論者 柘植雅義（筑波大学教授）

筑波大学の柘植氏からは、様々な示唆をいただいた。なかでも、インクルDBの今後5年後、10年後の姿とは、という質問が投げかけられた。障害の有無に関わらず共に学ぶとき、合意形成と意思の表明・意思の推察の視点からの事例の提供のニーズが高まるため分類方法も重要になるとされた。パーツごとの事例の収集からインテリジェンスのタンクに移行するには何が必要か、という質問が投げかけられた。特学、通級、通常の学級と学びの場が移行するときの合理的配慮とはどのようなようになるか、という質問もなされた。研修でのインクルDBの活用の具体についても質問された。

（ここで、藤井氏、仙北谷氏から研修におけるインクルDBの活用について具体的な回答がされた。）

<指定討論>

「我が国におけるインクルーシブ教育システム構築とインクルDB」

指定討論者 青木隆一（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官）

文部科学省の青木氏からは、「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」について概要の説明があり、「別紙2 分野別の留意点」のなかで、合理的配慮の具体例に関しては、インクルDBを参考とすることが効果的であるという記載があることが紹介された。また、文部科学省が編集している「季刊特別支援教育第57号（平成27年春号）」において、「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）の活用」が特集されており、着目するよう示唆があった。各地域において個別の経験値だけでなく相談事例の蓄積・共有がなされ、インクルDBと連携していくことでネットワークが構築され、全国の対応水準が高まっていくことを期待したいとされた。

<質疑応答>

フロアから、研修によって理解啓発した後の評価について質問があった。

回答者 仙北谷逸生（北海道教育庁学校教育局特別支援教育課）

北海道教育庁の仙北谷氏からは、アンケート評価と自己評価をしているが、具体的な事例（取組）について研修したいという要望もあり、今後の各種研修会等において反映していきたいという回答があった。

回答者 藤井里織（宮崎市立宮崎小学校・宮崎東諸県エリアコーディネーター）

宮崎市の藤井氏からは、アンケートによる評価をしているという回答があった。合理的配慮に関する全県の調査結果の数字を参考にすることもあるとされた。

<まとめ>

司会 藤本裕人（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）

本研究所の藤本から、国立教育政策研究所の「インクルーシブ教育システム構築支援学校施設データベース（「インクル学校施設DB）」と、特総研のインクルDBのホームページが相互リンクしていることと、基礎的環境整備について具体的な設備の参照ができるという紹介があった。